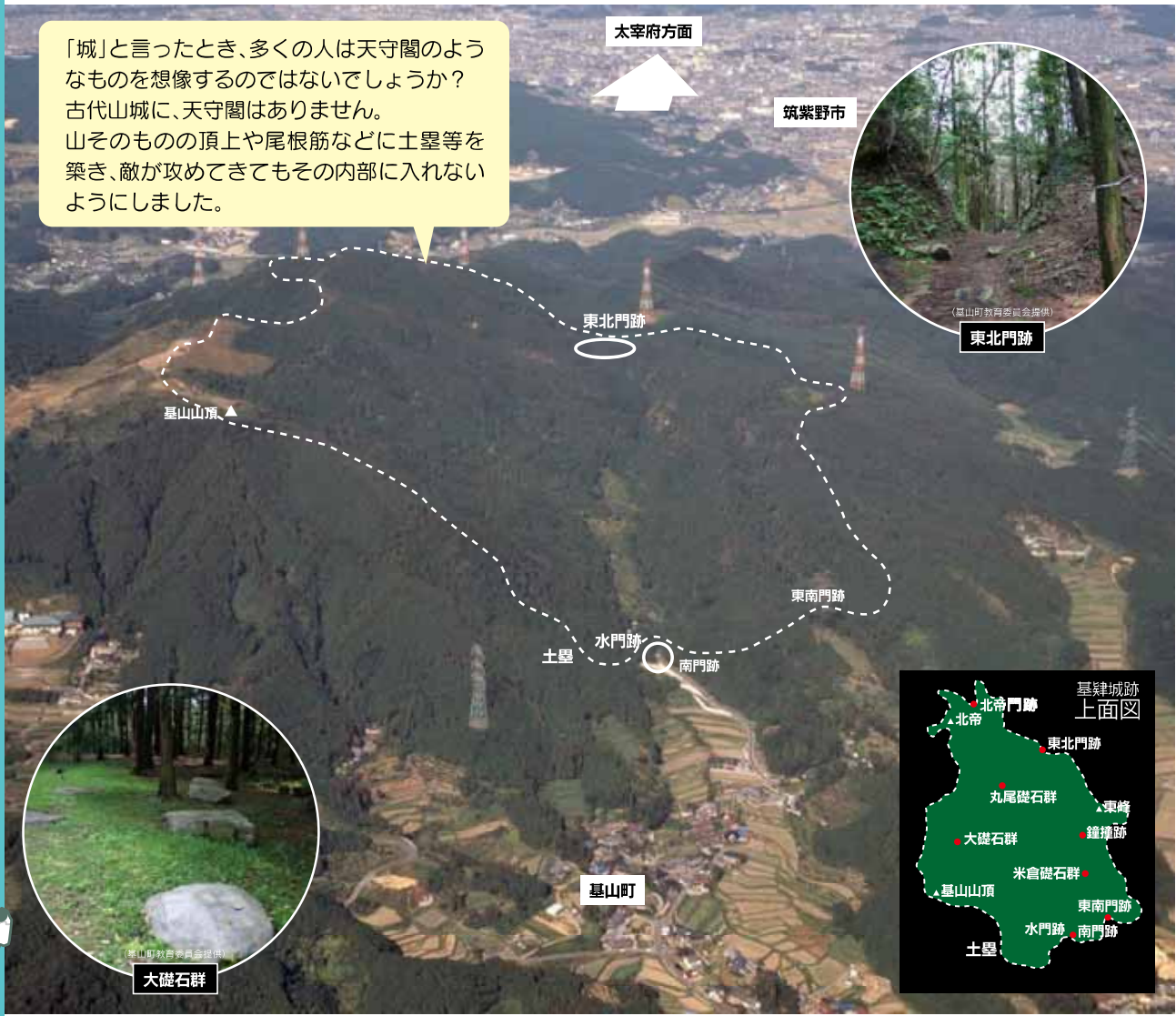


古代山城「^{き い じょう}基肄城」は、現在の^{き やま ちょう}基山町にある^{き ざん}基山を中心とした地域に、大宰府という重要な施設の南側の守りとして7世紀に築られました。



「城」と言ったとき、多くの人は天守閣のようなものを想像するのではないのでしょうか？
古代山城に、天守閣はありません。
山そのものの頂上や尾根筋などに土塁等を築き、敵が攻めてきてもその内部に入れないようにしました。



上空から見た基肄城跡



石塁(水門跡・南門跡)

基肄城の中にある大きな谷の、南側の出口にある石塁で、長さ約26m、高さ約8.5m、上部の幅約3.3mほどが残っています。石塁には水門が築かれ、以前は南門もあったようです。水門跡は、城内の雨水が流れ込む住吉川の水を外部に流すために石塁の一部を貫き、長さ約10m、高さ約1.4m、幅約1mほどの大きさで、下流へ傾斜するようにつくられています。

東北門跡

城の東北にあたる位置につくられていた門で、両側に門柱の基礎石である門礎が残っています。

北帝門跡(北門跡)

城の北にあたる位置にあり、大宰府からの正面玄関的な役割があったと考えられています。

大礎石群

城壁内に残る約40棟の礎石建物群の中で特に大きく、柱間が10間×3間あります。城内を一望できる場所にあることから、特別な役割があった建物だと考えられています。



(基山町教育委員会提供)

白村江の戦いの敗戦をきっかけに築城

基肄城が築かれたのは、西暦665年のことです。現在の三養基郡基山町と福岡県筑紫野市にまたがる**基山**に築かれました。九州北部や瀬戸内地方には、飛鳥時代から奈良時代ごろまでに築かれたとされる古代山城の跡が、多く見つかっています。

基肄城が築かれた理由は、大宰府を中心とした一帯を防衛するためとされています。7世紀後半、朝鮮半島にあった百済は、唐と新羅の連合軍に滅ぼされます。日本は、友好国であった百済の復興のため援軍を送りますが、西暦663年に大敗しました。これが**白村江の戦い**です。

日本は、逆に、唐と新羅から攻め込まれることを恐れ、大宰府を守るために一帯に**山城**や**水城**を築造しました。大宰府から見て博多湾側に開けた地に水城（堤防）、北側に大野城、そして南側にある基山に基肄城を築き、大宰府をぐるりと囲む形で防衛体制を整えたのです。

基山が選ばれた理由は、位置や眺望・交通の利

古代山城は、見晴らしのよい山に築かれました。基肄城が築かれた基山の位置を見ると、その地の利が一目瞭然です。北に守るべき大宰府があり、南西が有明海、その向こうの雲仙まで見渡すことができます。このため、基肄城の役割は、主に、有明海からの敵に備えるものだったと考えられます。当時の連絡手段である**烽**（のろしのこと）による連絡網は、

当時の基山周辺



COLUMN

万葉集に見える基山の道

今よりは 城の山道は 寂しむ
我が通はむと 思ひものと

大宰帥大伴旅人が奈良の都に帰ることになり、筑後守富井連大成が詠んだ歌です。「私は心楽しく通うつもりでいたのに、あなたがいないのでこれから先は大宰府への城の山道は寂しいことでしょう」という意味。この山道は基肄城東側の山越えの官道だったと考えられます。



米倉礎石群

炭化米が出土したことから、米倉の跡であると言われています。

見晴らしがよい場所にあることが条件で、基肄城は最適な場所にありました。また、佐賀はもともと大陸と日本の交流の拠点でした。大宰府との位置関係や、見晴らしがよいこと、そして交通の要衝であったという好条件が、基山に基肄城が築かれた大きな理由です。

城の様式は「**朝鮮式山城**」と言われます。朝鮮式山城は、百済から来た城造りに詳しい高官の指揮のもとで造られました。基肄城は、基山からその東峰にかけて尾根や谷を囲み、基山の尾根線と3か所の谷に設けられた土塁や石塁でつながれた全長約3.9kmの城壁が、城内の施設を防備していました。尾根沿いの城壁は土を盛った土塁で、谷の部分は「**石塁**」（堤防状の壁）が築かれています。これまでの調査で、城壁には門が**4**つ、排水のための水門が**4**つあったことがわかっています。そのほか、城壁内には礎石がある40棟の建物跡が見つかっており、武器や食糧などを保管していたと考えられる多くの建物があったことも分かっています。

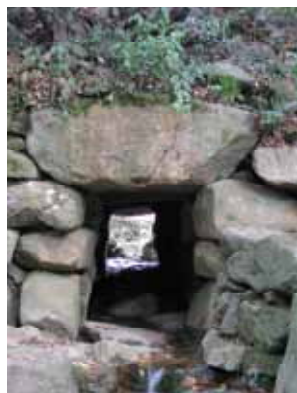
国づくりの始まりの地・佐賀

日本は大宰府を中心に北部九州の防衛体制を整えましたが、結局、唐



基肄城水門跡 水口の規模は国内最大級です。

(基山町教育委員会提供)



(基山町教育委員会提供)

と新羅が攻め込んで来ることはありませんでした。それでも、西日本各地には山城がつくられ続けました。その中で、基肄城がつくられた理由は次のように考えられます。

一つ目は、万が一、唐や新羅が攻め込んで来たときに備えたということです。長い歴史を大きな視点で見ると、「戦いに備えた防衛」という役割

の一端を、朝鮮半島や大陸とのさまざまなかわりの中で、基肄城が担うことになったということです。佐賀は古くから、大陸と朝鮮半島からの防衛も含め、人、文化、経済の重要な受け入れ口だったのです。

二つ目に、大宰府を中心とした北部九州の安定化のための役割

COLUMN

古代の連絡手段 烽(とぶひ)

夜は火、昼間は煙を使って、遠くにいる人に危急を知らせる通信手段でした。「烽」は「烽火^{のろし}」とも書き、雨の日などには煙を用いました。

基肄城内での場所はわかっていませんが、烽を上げる場所があったと推測されます。



もあつたと考えられます。

基肄城がつくられたころから、大和政権の古代国家体制づくりが始まっています。山城をつくり続けることで、中央政権の強さを地方豪族に見せつける目的もあつたのかもしれませんが。この両面などから見て、基肄城は7世紀当時の歴史を考えるうえで貴重な史跡と言えるでしょう。

学校の取組

【基肄城に係る歴史を学ぶ】

基山町



小中学生へ配布している「ふるさと基山の歴史」という冊子を使って、基肄城に係る歴史を学んでいます。

調べて書いてみよう!

基肄城跡以外で大宰府を守るための城跡を調べて書いてみましょう。



出かけてみよう!



基肄城跡徒歩コース

現在、基肄城跡には、歴史に思いをはせながら歩くことができる徒歩コースが整備されています。礎石群などを見ながら歩く「史跡めぐりコース」は約2時間、気軽な登山気分を味わって歩く「登山道コース」は約40分で楽しむことができます。

(基山町教育委員会提供)



基山町立図書館

(三養基郡基山町大字宮浦 60-1)

基肄城の資料をはじめ、一年を通じて、様々な展示を行っています。

TEL 0942-92-0289 / 休館日 月曜日、祝日、年末年始 / 開館 8:00~18:00

(基山町立図書館提供)



検索してみよう!

大宰府の歴史

古代山城

佐賀県神籠石

